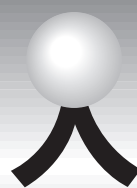




宿 泊数の伸び悩み、ホテルの閉館など厳しい状況が続く洞爺湖温泉で、12社のホテル、旅館が加盟する組合の新組合長に就任しました。

価値観の多様化や先行きの不透明感など、難しい時代を迎えるなかで、24年ぶりに新旧の交代がなされ、その手腕に期待が集まっています。

平成5年一般の民間企業から、



とうや湖温泉旅館組合の新組合長に就任した

洞爺観光ホテル社長

三浦和則さん(47)

洞爺観光ホテル常務として故郷に戻り、同14年からは社長に就任しました。

「組合員同士の連携はもちろんのことですが、飲食店組合など異業種の人達や行政などとの関係も築いていきたい」と地域全体を活性化させる視点の大切さを強調します。

同時に「不景気を理由にするのではなく、自分たちの努力不足を反省し、お客様に伝える質の高いサービスの提供をいつも心がけなければならない」と個別の旅館のあり方についても目を配ります。

活性化に向けての今後の課題について、洞爺湖の魅力を生かしきれていない現状」を指摘。洞爺湖の自然など、当たり前に感じて気付かない、もともとあるさまざまな恵みを宝として再認識し、活用する手立てを探ろうとしています。

「全てを一変に解決する処方箋はない」と言い、前を向いてこつこつと進めていくしかない」と現実を見据えての改革を展望します。

完走9回の洞爺湖マラソンで培った粘り強さが、真価を発揮する時です。

シリーズ 洞爺湖有珠山ジオパーク



洞爺湖有珠山ジオパークとは

2009年8月、洞爺湖有珠山ジオパークは、糸魚川ジオパーク、島原半島ジオパークとともに、日本で初めて「世界ジオパーク」として登録されました。

ジオパークとは、科学的に見て特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を複数含む自然公園です。

2010年3月現在、ヨーロッパでは35地域、アジアでは27地域、オセアニアでは1地域、南米では1地域の合計64地域の世界ジオパークがあります。

世界遺産と違い、保全だけでなく、地域にある自然遺産、例えば地層、地形、火山などこれらに関わる遺産を保護し研究に活用するとともに、自然と人間との関わりを理解する場所として整備し、科学教育や防災教育の場として、さらに地質遺産を観光の対象とする「ジオツーリズム」を通じて、持続可能な地域経済や地域文化の発展を目指す取り組みです。

ただ単に地質学的に重要なものだけでなく、地形によってつくりだされる景観、貴重な植物、生態系、また、文化、産業など地域に根ざしたのもジオパークの関連資源となります。

変動する大地との共生

「洞爺湖有珠山ジオパーク」の最大の特徴は、アクセスの良い極めて狭い範囲で、10万年スケールの洞爺湖から1～2万年の有珠山、そして1663年以降9回の火山活動の歴史を見て学ぶことができることであり、「変動する大地との共生」をテーマとしたジオパークです。

ジオパークのエリアは壮瞥町、伊達市、洞爺湖町、豊浦町のほか、洞爺火砕流の地質的に重要なポイントとして真狩村と留寿都村の一部が入っています。

